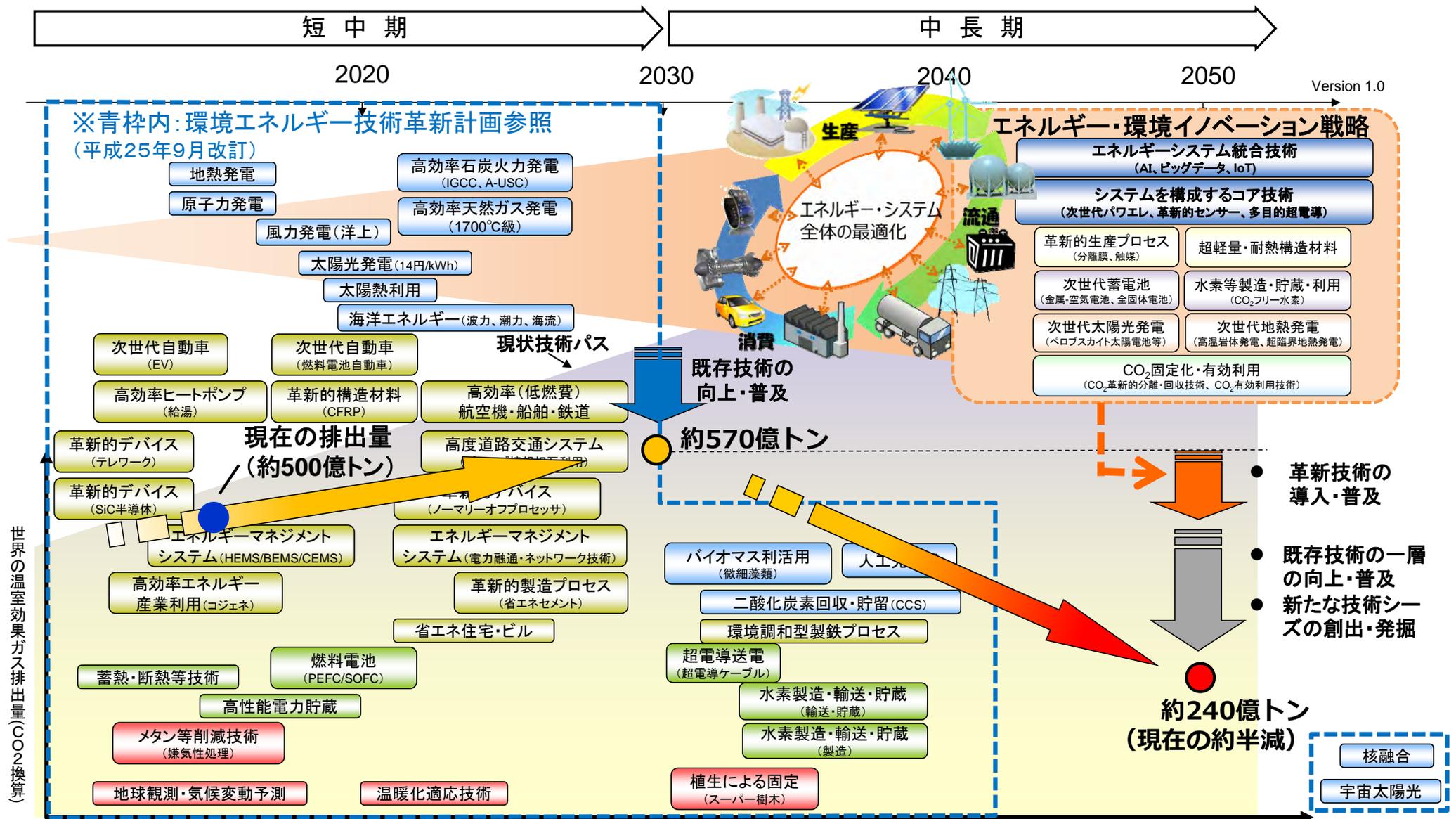


(参考1) 2050年までの世界の温室効果ガス削減のイメージ



※1 環境エネルギー技術の横軸上の位置は、各技術のロードマップを踏まえ、本格的な普及のおおよその時期を示すものである。
 ※2 「現状技術パス」は、各種技術の効率(例えば、石炭火力発電の発電効率)が変化しない場合の世界全体のおおよその排出量を示すものである。
 ※3 「既存技術向上・普及」及び「より革新的な技術普及」の矢印は、世界全体で排出量半減の目標を達成するためには、既存技術の向上・普及だけでなく、より革新的な技術の普及による削減が必要であることを示すものであり、それぞれの技術による厳密な削減幅を示すものではない。
 ※4 2030年、2050年に向けた排出量の推移はイメージであり、必ずしも線形に変化することを示すものではない。

※1 枠の横幅の中ほどが本格的な普及のおおよその時期を示す
 ※2 括弧の中は、各項目における技術の一例を抜き出したもの

世界の温室効果ガス排出量(CO₂換算)

(1) COP21で採択されたパリ協定

- 世界共通の長期目標として2℃目標の設定。1.5℃に抑える努力を追求することに言及。
- 主要排出国を含むすべての国が削減目標を5年ごとに提出・更新。
- イノベーションの重要性の位置付け。 等

(2) COP21後の国内温暖化対策

地球温暖化対策計画
【地球温暖化対策推進本部】
(内閣官房・環境省・経産省)

①パリ協定・約束草案を踏まえた総合計画

- 地球温暖化対策推進法に基づき、国の温室効果ガスの排出削減の目標として、**2030年度**において、2013年度比26%減の水準にする旨を明記し、その達成のために各主体が講ずべき措置や国・自治体の施策を記載。
- さらに、長期的な目標を見据えた戦略的取組、世界の温室効果ガスの削減に向けた取組についても方向性を示した。
- パブコメを踏まえて5月に閣議決定予定。

エネルギー革新戦略
(経産省)

②2030年を見据えたエネルギーミックス実現に向けた戦略

- **2030年度**のエネルギーミックスの実現に向けて、徹底した省エネ、再エネの拡大、新たなエネルギーシステムの構築等を柱として、関連制度を一体的に整備。
- 戦略の実行により、エネルギー関連投資を拡大し、効率の改善を促し、アベノミクスのGDP600兆円実現への貢献とCO₂排出抑制の両立を目指す。
- 経産省にて4月にとりまとめ。

エネルギー・環境イノベーション戦略
【総合科学技術・イノベーション会議】
(内閣府)

③2050年を見据えた革新的技術戦略

- 2030年の世界における排出総量は約570億トンの見込み。2℃目標と整合的なシナリオに戻すには、300億トン超の追加的削減が必要。
- 世界全体で抜本的な排出削減を実現するイノベーションが不可欠。
- **2050年**を見据え、削減ポテンシャル・インパクトが大きい有望な革新技術を特定するとともに、長期的な研究開発の推進体制を取りまとめ。
- 総合科学技術・イノベーション会議にて4月19日に諮問・答申。